

教 育 研 究 業 績

2021 年 7 月 1 日

氏名： 湯 立

学位： 博士（心理学）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教育心理学	動機づけ、自己調整方略	
主要担当授業科目	臨床心理学特講 B、心理学実験 I・II、心理学研究法 I・II、心理学統計法（心理データ処理 I）・心理データ処理（心理データ処理 II）、社会調査実習	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 心理統計法実習	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	筑波大学人間学群心理学類において、1 年生を対象とした授業「心理統計法」の教育補助を担当した。身近の例を用いて演習問題を作成し、グラフで抽象的な統計知識を具体的に表現しながら、講義を行なった。これにより、学習した内容の定着を促した。
2) 心理学研究法	平成 28 年 9 月～平成 30 年 3 月、令和 2 年 4 月～令和 3 年 6 月	筑波大学人間学群心理学類において、2・3 年生を対象とした授業「心理学研究法」の実践指導を担当した。先行研究の講読、実験材料の準備、データの収集・整理・分析、そしてレポート作成の指導を行なった。これにより、体験を通して、実験法基本の習得を促した。
3) 心理学実験	令和 2 年 4 月～令和 3 年 6 月	筑波大学人間学群心理学類において、2 年生を対象とした授業「心理学実験」の調査法部分を担当した。身近の例を用いて調査法の基本や尺度作成の方法を説明したうえで、受講生に尺度作成の実習を行なってもらった。これにより、体験を通して、調査法基本の習得を促した。
4) 高校生向けの心理学授業	令和 2 年 4 月～現在に至る	茨城県立結城第二高等学校において、高校 1 年生を対象とした授業「心理学」を担当し、学び合う活動を取り入れた授業の実践を行なった。前回授業の振り返りとして、生徒たちにペアを組んでもらい、お互いに学んだ内容を説明し合う時間を設けた。自分の言葉で説明することや他人の説明を傾聴することを通して、生徒の授業内容に対する理解を深めることができた。
2 作成した教科書、教材 1) 高校生のための「心理学」教材	令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月	高校生に興味関心のあるような心理学のトピックを取り上げ具体例やクイズを交えながら、授業資料を作成した。
2) 新・教職課程演習 第 5 巻 教育心理学	令和 3 年 5 月	第 5 章「動機づけと情動」の「動機づけの意味と動機づけ要因について説明しなさい」、「期待—価値モデルについて説明しなさい」、第 7 章「知能とパーソナリティ」の「教育心理学研究における個人差研究の歴史（展開）について説明しなさい」を分担執筆。教育心理学に関する基礎知識を Q&A の形式でわかりやすく説明する書籍である。 執筆 pp. 89-91、99-101、149-153
3 教育上の能力に関する大学等の評価 特記事項なし		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 特記事項なし		
5 その他 特記事項なし		

職務上の実績に関する事項				
事項		年月日	概要	
1 資格、免許 特記事項なし				
2 特許等 特記事項なし				
3 実務の経験を有する者についての特記事項		平成 27 年 4 月～現在に至る	NPO 法人教育テスト研究センター (CRET) の連携研究員として、共同研究を行ってきた。	
4 その他		平成 30 年 9 月	共同研究者として日本心理学会第 82 回大会学術大会優秀発表賞を受賞した。 題目：「防止焦点は認知資源の温存効果に優れているのか」 (外山美樹・湯立・肖雨知・長峯聖人・三和秀平・相川充)	
		令和元年 9 月	共同研究者として日本教育心理学会 2018 年度優秀論文賞を受賞した。 題目：「制御焦点がパフォーマンスに及ぼす影響—学習性無力感パラダイムを用いた実験的検討—」 (外山美樹・湯立・長峯聖人・黒住嶺・三和秀平・相川充)	
		令和 2 年 9 月	第 1 著者として日本心理学会第 84 回大会学術大会優秀発表賞を受賞した。 題目：「誘惑対処方略の有効性における学業目標の重要度と困難度の影響—日誌法による検討—」 (湯立・外山美樹・三和秀平・長峯聖人・海沼亮・相川充)	
		令和 2 年 11 月	筑波大学人間系研究支援プログラムが採択された。 課題名：「メタ動機づけのモニタリングはコントロールにどのように利用されるか？」	
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 新版・保育用語辞典	共著	平成 28 年	一藝社	共著：谷田貝公昭 (編集) ほか 108 名 保育を取り巻く幅広い分野の専門用語について、わかりやすく簡潔に解説辞典である。筆者は、「コンピテンス」・「主体性」・「受容」・「生涯発達」・「情緒」・「象徴機能」・「少年」・「初期体験」・「自立」・「心情」・「新生児」・「劣等感」・「ホール」を執筆した。 執筆 pp. 152、207、209、214、218、220、221、225～226、230、231、402、431
2『新・教職課程演習 第 5 巻 教育心理学』(再掲)	共著	令和 3 年 5 月	協同出版	共著：外山美樹・湯澤正通 (編集) ほか 20 名 教育心理学に関する基礎知識を Q&A の形式でわかりやすく説明する書籍である。筆者は、第 5 章「動機づけと情動」の「動機づけの意味と動機づけ要因について説明しなさい」、「期待—価値モデルについて説明しなさい」、第 7 章「知能とパーソナリティ」の「教育心理学研究における個人差研究の歴史 (展開) について説明しなさい」を執筆した。 執筆 pp. 89-91、99-101、149-153

<p>(学術論文・審査論文) 1 大学生における専攻している分野への興味の変化様態—大学生用学習分野への興味尺度を作成して—</p>	共著	平成 28 年	教育心理学研究、64、 212-227.	<p>共著：湯立・外山美樹 動機づけ傾向としての興味を測定する尺度を作成し、大学生の専攻している分野への興味の変化様態について検討した。大学新入生を対象とした6ヶ月間の短期的縦断調査の結果、全体的な変化パターンについて、新入生の「感情的価値による興味」、「認知的価値による興味」は緩やかに減少するが、「興味対象関連の知識」はより急速に増加することが示された。個人差について、入学後1ヶ月の時点で、興味得点にはすでに個人差が存在し、「感情的価値による興味」の変化のパターンは個人差が大きいことが示された。</p>
<p>2 プロセスフィードバックが動機づけに与える影響—制御焦点を調整変数として—</p>	共著	平成 29 年	教育心理学研究、65、 321-332.	<p>共著：外山美樹・湯立・長峯聖人・三和秀平・相川充 ポジティブなプロセスフィードバック (PosiProFB) とネガティブなプロセスフィードバック (NegaProFB) が受け手の動機づけに与える影響において、制御焦点が調整変数となりうるのかどうかを検討した。実験の結果、促進焦点が活性化された場合には、NegaProFB よりも PosiProFB が与えられた方が次の課題への努力が高く、課題への興味が向上することが示された。一方で、防止焦点が活性化された場合には、逆に、PosiProFB よりも NegaProFB が与えられた方が次の課題への努力が高く、課題への興味が向上することが示された。</p>
<p>3 制御焦点が学業パフォーマンスに及ぼす影響—制御適合の観点から—</p>	共著	平成 29 年	教育心理学研究、65、 477-488.	<p>共著：外山美樹・長峯聖人・湯立・三和秀平・黒住嶺・相川充 制御焦点 (促進焦点、防止焦点) と学習方略 (熱望方略、警戒方略) の適合が学業パフォーマンス (空所補充型テスト、記述式テスト) に及ぼす影響について検討した。研究の結果、促進焦点の傾向が高い人は、熱望方略 (マクロ理解方略) を多く使用している場合に、記述式テストにおいて高い学業成績を収めていた。一方、防止焦点の傾向が高い人は、警戒方略 (ミクロ理解方略) を多く使用している場合に、空所補充型テストにおいて高い学業成績を収めていた。</p>
<p>4 制御適合はパフォーマンスを高めるのか?—制御適合の種類別の検討—</p>	共著	平成 29 年	心理学研究、 88、 274-280.	<p>共著：外山美樹・長峯聖人・湯立・三和秀平・黒住嶺・相川充 パフォーマンスのタイプ (速さ、正確さ) を考慮したうえで、制御適合の種類別に制御適合がパフォーマンスに及ぼす影響について、2つの実験で検討した。研究の結果、促進焦点では熱望方略を使用すると制御適合が生じ、速さが高くなることが示された。一方で、防止焦点では警戒方略を使用すると制御適合が生じ、正確さが高くなることが示された。</p>
<p>5 制御焦点の違いが上方比較後の動機づけおよびパフォーマンス</p>	共著	平成 29 年	教育心理学研究、65、 489-500.	<p>共著：三和秀平・外山美樹・長峯聖人・湯立・相川充</p>

<p>に与える影響</p>				<p>上方比較と制御焦点が動機づけおよびパフォーマンスに与える影響について、同化、対比といった比較の過程に着目して検討した。実験の結果、促進焦点の傾向が高い人は、同化が生じた場合に、防止焦点の傾向が高い人よりも動機づけやパフォーマンスが高いことが示された。一方で、防止焦点の傾向が高い人は対比が生じた場合に、同化が生じたときよりもパフォーマンスが高いことが示された。</p>
<p>6 制御焦点がパフォーマンスに及ぼす影響—学習性無力感パラダイムを用いた実験的検討—</p>	<p>共著</p>	<p>平成 30 年</p>	<p>教育心理学研究、66、287-299.</p>	<p>共著：外山美樹・湯立・長峯聖人・黒住嶺・三和秀平・相川充 学習性無力感パラダイムを用いて、実験参加者にストレスフルな失敗経験を与えた後の、制御焦点と課題パフォーマンスの関連を検討した。研究の結果より、学習性無力感を体験した後の課題において、促進焦点条件のほうが、防止焦点条件よりも、パフォーマンスが高いことが示された。また、解決可能な課題と解決不可能な課題が混在している課題においては、防止焦点のほうが促進焦点よりも、パフォーマンスが高い傾向にあることが示された。</p>
<p>7 制御適合がメッセージの評価に及ぼす影響の検討—熟知性に着目して—</p>	<p>共著</p>	<p>平成 30 年</p>	<p>心理学研究、88、587-593.</p>	<p>共著：長峯聖人・外山美樹・湯立・三和秀平・黒住嶺・相川充 熟知性の低い対象の評価における制御焦点と情報提示との適合について、2つの実験で検討した。研究の結果、熟知性の低い対象において促進焦点と二面的情報提示の適合が見られた。一方で、防止焦点と一面的情報提示の適合は見られなかった。</p>
<p>8 動機づけ理論に基づく動機づけ調整方略尺度の作成</p>	<p>共著</p>	<p>令和元年</p>	<p>パーソナリティ研究、28、182-185.</p>	<p>共著：湯立・外山美樹 主な動機づけ理論（期待—価値理論、自己決定理論、制御焦点理論）に基づき、トップダウン的視点から動機づけ調整方略尺度を新たに作成し、その信頼性と妥当性の検討を行った。</p>
<p>9 大学運動部活動における部員の自律的動機づけが部活動への適応感に及ぼす影響—主将のリーダーシップを調整変数として—</p>	<p>共著</p>	<p>令和元年</p>	<p>教育心理学研究、67、175-189.</p>	<p>共著：外山美樹・湯立 運動部活動の部員の自律的動機づけと部活動への適応感との関連が、部活動のリーダーである主将のリーダーシップによって調整されるのかどうかを、部活動の集団レベルの動機づけを統制したうえで検討した。研究の結果、部員の運動に対する自律的動機づけが「部の雰囲気への満足」に与える影響は、主将の技術指導、人間関係調整、統率の程度によって調整されることが示された。主将の技術指導、人間関係調整、統率が高い主将の集団では、部員の自律的動機づけが「部の雰囲気への満足」と正の関連を示したが、それらが低い主将の集団では、部員の自律的動機づけと「部の雰囲気への満足」の正の関連が弱まることを示された。</p>
<p>10 防止焦点は認知資源の温存効</p>	<p>共著</p>	<p>令和元年</p>	<p>心理学研究、90、</p>	<p>共著：外山美樹・湯立・長峯聖人・三和</p>

<p>果に優れているのか？</p>			<p>242-251.</p>	<p>秀平・相川充 認知資源の温存効果の観点から、制御焦点とパフォーマンスの関係を検討した。研究の結果、防止焦点が活性化されると、将来、優先順位の高い課題に従事することがわかっているとき、認知資源を温存しようとする意図が働くことが示された。</p>
<p>11 制御焦点とライバル関係との関連—ライバルによる理想自己の顕在化と動機づけの生起を考慮して—</p>	<p>共著</p>	<p>令和元年</p>	<p>教育心理学研究、67、162-174.</p>	<p>共著：長峯聖人・外山美樹・三和秀平・湯立・相川充 特性的に促進焦点の個人は、特性的に防止焦点の個人よりもライバル関係を形成しやすく、ライバル関係による恩恵を受けやすいかどうかを、2つの研究で検討した。大学生スポーツ競技者を対象とした調査の結果、促進焦点の個人はライバル関係によって理想自己の顕在化と鼓舞的動機づけの生起が生じやすいことが明らかになった。</p>
<p>12 大学生における動機づけ調整方略が動機づけ傾向としての興味に及ぼす影響—動機づけの低下状況に着目して—</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年</p>	<p>パーソナリティ研究、28、208-220.</p>	<p>共著：湯立・外山美樹 2つの動機づけの低下状況（退屈な場面と困難な場面）を比較しながら、動機づけ調整方略が動機づけ傾向としての興味に及ぼす影響について検討した。短期縦断的調査の結果、退屈な場面における課題価値を調整する方略（興味高揚方略、自己報酬方略）、困難な場面における自己効力感を調整する方略（自己効力感高揚方略）は、後続の感情的価値による興味の高さを予測した。</p>
<p>13 産出物の制約が創造的パフォーマンスに及ぼす影響—制御焦点を調整変数として—</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年</p>	<p>ソーシャルモチベーション研究、10、2-25.</p>	<p>共著：湯立・外山美樹・長峯聖人・三和秀平・相川充 産出物のカテゴリー制約（制約あり、制約なし）が創造的パフォーマンスに与える影響について、制御焦点が調整変数となりうるかどうかを2つの実験で検討した。研究の結果、産出物の制約が創造的パフォーマンスを高める効果が促進焦点で見られ、防止焦点で見られないという仮説が実験1においてのみ支持された。</p>
<p>14 小学生のいじめ加害行動を低減する要因の検討—個人要因と学級要因に着目して—</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年</p>	<p>教育心理学研究、68、295-310.</p>	<p>共著：外山美樹・湯立 いじめ加害行動の抑制に関する個人要因としていじめ観ならびに罪悪感の予期を、学級要因として学級の質を取りあげて検討した。小学生を対象とした1ヶ月間の短期縦断的調査の結果、いじめを根本的に否定する考え方を有している小学生は、いじめ加害行動の抑制につながりやすいことが示された。一方で、罪悪感の予期は、いじめ加害行動の抑制につながらなかった。さらに、友人関係雰囲気、学級雰囲気、承認雰囲気、いじめ否定雰囲気といった子どもが所属している学級集団の質の要因が、いじめ加害行動の抑制につながることが示された。最後に、学級集団の雰囲気が良い学級においていじめ加害行動が多くみられる児童は、その傾向が長期化しやすいことが示された。</p>

15 防止焦点は本当に創造性を低下させるのか	共著	令和2年	心理学研究、91、155-164.	<p>共著：外山美樹・長峯聖人・湯立・肖雨知・三和秀平・相川充</p> <p>心的資源を投入する操作として課題への自我関与に着目し、制御焦点と創造的パフォーマンスの関連を検討した。研究の結果、防止焦点は、創造性課題への自我関与が高い時にそうでない時よりも、創造的パフォーマンスが高いことが示された。一方で、促進焦点は、創造性課題への自我関与の程度によって創造的パフォーマンスに差が見られないことが示された。</p>
16 連続する2つのメッセージにおける同化と対比—制御焦点の観点から—	共著	令和2年	心理学研究、91、202-208.	<p>共著：長峯聖人・外山美樹・湯立・肖雨知・海沼亮・三和秀平・相川充</p> <p>連続する2つのメッセージにおける同化と対比による効果が、制御焦点による影響を受けるかどうかを検討した。実験の結果、防止焦点に関しては、対比による効果が見られ、プライム刺激の専門性が低い場合に、高い場合よりもターゲット刺激の専門性得点が高くなっていた。一方で、促進焦点に関してはプライム刺激の専門性によるターゲット刺激の専門性に有意な差が見られなかった。</p>
17 制御焦点は基本的心理欲求とウェルビーイングの関連を調整するか	共著	令和3年	心理学研究、91、409-415.	<p>共著：三和秀平・外山美樹・肖雨知・長峯聖人・湯立・海沼亮・相川充</p> <p>友人関係において欲求支援、欲求充足、ウェルビーイングの関連のうち、いずれの過程を制御焦点が調整しているのかを検討した。研究の結果、関係性支援から関係性充足につながる過程において防止焦点の調整効果が見られた。その一方で、欲求充足とウェルビーイングとの関連においては調整の効果は見られなかった。よって、制御焦点の違いは、友人からの関係性支援を受けた際に、その受け取り方に違いをもたらす、関係性欲求が充足されるかどうかに関わることが明らかとなった。</p>
18 学業目標の重要度と困難度が誘惑対処方略の有効性に及ぼす影響	共著	令和3年	心理学研究、91、印刷中	<p>共著：湯立・外山美樹・三和秀平・長峯聖人・海沼亮・相川充</p> <p>学業目標の重要度と困難度が実際の学習場面における誘惑対処方略と目標優先行動の関連を調整するかどうかについて検討した。大学生を対象とした日誌法調査の結果、誘惑対処方略によって異なる特徴が見られた。具体的には、「目標意味確認方略」と目標優先行動の関連は、目標の重要度と困難度によって調整された。「目標実行方略」と目標優先行動の関連は、目標の困難度のみによって調整された。「誘惑回避方略」は、目標の性質にかかわらず、目標優先行動を促進した。</p>
19 制御適合した欲求支援行動がエンゲージメントに及ぼす効果	共著	令和3年	心理学研究、91、印刷中	<p>共著：外山美樹・長峯聖人・海沼亮・三和秀平・湯立・相川充</p> <p>欲求支援行動（自律性支援、関係性支援）と制御焦点（促進焦点、防止焦点）</p>

				が課題学習へのエンゲージメントならびにパフォーマンスに与える影響について検討した。促進焦点の高い個人に自律性支援、防止焦点の高い個人に係性支援が行われた時に、課題へのエンゲージメントならびにパフォーマンスがより高まる仮説を立て、大学生 64 名に対して実験を行った。その結果、パフォーマンスにおいて仮説は支持されなかったが、課題への状態的エンゲージメントにおいて、仮説は一部支持された。
(学術論文・大学紀要等論文) 1 大学生における専攻分野への学習興味と専攻分野に対する価値認識との関連—大学生用学習分野価値尺度を作成して—	共著	平成 28 年	筑波大学心理学研究、52、7-17.	共著：湯立・外山美樹 大学生用学習分野価値尺度を作成し、大学生における専攻分野への学習興味と専攻分野に対する価値認識の関連について、交差遅延モデルを用いて検討した。回想法による質問紙調査の結果、大学1年時の「興味関連価値」が調査時の「感情的価値による興味」、「認知的価値による興味」、大学1年時の「興味対象知識」が調査時の「実用関連価値」を予測することが示された。
2 学業領域における制御焦点尺度の作成—信頼性・妥当性の検討—	共著	平成 28 年	筑波大学心理学研究、52、19-24.	共著：外山美樹・長峯聖人・湯立・三和秀平・相川充 学業領域における制御焦点尺度を作成し、その信頼性と妥当性の検討を行った。
3 制御適合はパフォーマンスを高めるのか？—制御適合の種類とパフォーマンスのタイプ別の検討—	共著	平成 28 年	教育テスト研究センター年報、1、22-24.	共著：外山美樹・長峯聖人・湯立・三和秀平・相川充 パフォーマンスのタイプ（速さ、正確さ）を考慮した上で、制御適合の種類別（促進焦点と熱望方略、防止焦点と警戒方略）に、制御適合がパフォーマンスに及ぼす影響について検討した。実験の結果、速さについては、制御適合の種類には関係なく、制御適合を経験するとパフォーマンスが高まった。一方で、正確さについては、制御適合の効果は、防止焦点と警戒方略の組み合わせにおいてのみ見られた。
42 つの制御焦点が対象の価値に及ぼす影響の検討—情報提示条件に着目して—	共著	平成 28 年	教育テスト研究センター年報、1、34-36.	共著：長峯聖人・外山美樹・湯立・三和秀平・相川充 制御適合が対象の価値に及ぼす影響について、制御適合のタイプ（促進焦点の適合、防止焦点の適合）と情報提示条件（一面的情報提示、二面的情報提示）を考慮した検討を行った。実験の結果、促進焦点の制御適合が生じた場合は、一面的情報提示条件よりも二面的情報提示条件において対象の金銭的価値を高く見積った。防止焦点の制御適合においても同様の結果が得られた。
5 制御焦点と上方比較後の感情・動機づけ・パフォーマンスとの関連—同化と対比に着目して—	共著	平成 28 年	教育テスト研究センター年報、1、37-39.	共著：三和秀平・外山美樹・長峯聖人・湯立・相川充 上方比較後の感情・動機づけ・パフォーマンスとの関連について、制御焦点と同化および対比に着目して検討した。実験の結果、上方比較をした際、促進焦点

<p>6 拡散的思考課題における産出物のカテゴリ制約がパフォーマンスに及ぼす影響—制御焦点を調整変数として—</p>	<p>共著</p>	<p>平成 29 年</p>	<p>教育テスト研究センター年報、 2、38-40.</p>	<p>の個人が同化が生じた場合に、防止焦点の個人は対比が生じた場合に、それぞれ高い動機づけまたはパフォーマンスへつながることが示された。</p> <p>共著：湯立・黒住嶺・外山美樹・長峯聖人・三和秀平・相川充</p> <p>産出物のカテゴリ制約（制約あり、制約なし）と制御焦点（促進焦点、防止焦点）が拡散的思考課題におけるパフォーマンスに与える影響について検討した。実験の結果、促進焦点では、制約がない場合よりも制約がある場合のほうが、多くのアイデアを創出した。防止焦点では、制約によるパフォーマンスの違いは見られなかった。</p>
<p>7 制御適合はパフォーマンスを高めるのか—小学生を対象として—</p>	<p>共著</p>	<p>平成 29 年</p>	<p>教育テスト研究センター年報、 2、41-43.</p>	<p>共著：三和秀平・外山美樹・長峯聖人・湯立・黒住嶺・相川充</p> <p>制御適合によるパフォーマンスの向上が小学生でもみられるのかどうかを検討した。具体的には、計算課題における「速さ」または「正確さ」の重視と教師が評点する子どもの制御焦点との適合を検討した。研究の結果、交互作用は有意とならなかった。しかし、下位検定を実施したところ、促進焦点の子どもは速さを重視したときに、正確さを重視したときよりも速さの得点が高い傾向にあること、防止焦点の子どもは正確さを重視したときに、速さを重視したときよりもミス数が少ない傾向にあることが示された。</p>
<p>8 制御適合は小学生のパフォーマンスを高めるのか？</p>	<p>共著</p>	<p>平成 30 年</p>	<p>教育テスト研究センター年報、 3、22-24.</p>	<p>共著：三和秀平・外山美樹・長峯聖人・湯立・黒住嶺・相川充</p> <p>Miwa et al. (2018)の研究の追試を行い、計算課題に取り組む際の方略（速さ重視、正確さ重視）と、教師の評定する子どもの制御焦点との適合が計算課題のパフォーマンスに及ぼす影響を検討した。研究の結果、促進焦点の子どもは速く取り組むように教示された際に、速さのパフォーマンスが高まることが示された。一方で、防止焦点の子どもに関しては、正確に取り組む方略との適合の効果は見られなかった。</p>
<p>9 制御焦点がパフォーマンスに及ぼす影響—目標達成の観点から—</p>	<p>共著</p>	<p>令和元年</p>	<p>教育テスト研究センター年報、 4、1-10.</p>	<p>共著：外山美樹・長峯聖人・湯立・肖雨知・三和秀平・相川充</p> <p>制御焦点と目標達成が後続課題のパフォーマンスに及ぼす影響について、一般的な認知課題を用いて検討した。実験の結果、防止焦点は、ある目標が達成されると、後続課題のパフォーマンスが低いことが示された。</p>
<p>10 基本的心理欲求支援が欲求充足を介して友人関係評価に及ぼす影響—制御焦点に着目して—</p>	<p>共著</p>	<p>令和元年</p>	<p>教育テスト研究センター年報、 4、40-43.</p>	<p>共著：三和秀平・外山美樹・長峯聖人・湯立・肖雨知・相川充</p> <p>友人関係における基本的心理欲求支援（自律性支援、関係性支援）、欲求充足（自律性充足、関係性充足）、関係評価の関連を制御焦点が調整するのかを検討した。研究の結果、欲求支援と欲求充足</p>

11 欲求支援行動が課題学習へのエンゲージメントに及ぼす影響—制御焦点に着目して—	共著	令和元年	教育テスト研究センター年報、4、45-47.	との関係において制御焦点の調整効果が見られた。促進焦点よりも防止焦点において自律性支援と自律性充足の関連が強かった。関係性支援と関係性充足の関連においても同様な結果が見られた。
12 制御焦点がパフォーマンスに及ぼす影響—上位目標の活性化と下位目標の達成の観点から—	共著	令和2年	教育テスト研究センター年報、5、1-10.	共著：外山美樹・長峯聖人・湯立・三和秀平・相川充 上位目標が活性化されている場合の、制御焦点と下位目標の達成が後続課題のパフォーマンスに及ぼす影響について検討した。実験の結果、上位目標が活性化されていれば、防止焦点は下位目標が達成されていても後続課題のパフォーマンスは、促進焦点と同程度であることが示された。また、防止焦点においては、下位目標未達成条件におけるパフォーマンスは促進焦点よりも高かった。
13 身近な役割モデルの存在と英語学習の関連—制御焦点に着目して—	共著	令和2年	教育テスト研究センター年報、5、33-36.	共著：三和秀平・外山美樹・長峯聖人・湯立・海沼亮・相川充 役割モデルの存在と制御焦点が英語学習へのエンゲージメント、および英語成績に与える影響を検討した。大学生を対象とした調査の結果、促進焦点の個人は、「そうになりたい」と思えるようなポジティブ役割モデルが身近にいる場合に高い英語成績を示していた。一方で、防止焦点においては、「こうなりたくない」と思うようなネガティブ役割モデルがいることによる効果は見られなかった。
14 中学生用制御焦点尺度の作成—RFQ (Regulatory Focus Questionnaire) に着目して—	共著	令和2年	教育テスト研究センター年報、5、41-44.	共著：海沼亮・外山美樹・長峯聖人・湯立・三和秀平・相川充 中学生の制御焦点を測定することのできる尺度をRegulatory Focus Questionnaireに基づいて開発し、その信頼性と妥当性を検討した。
(学位論文) 1 大学生における専攻分野への学習興味と自己効力感、動機づけ調整方略との関連	単著	令和元年	博士学位論文 (未公開)	大学生を対象に、自己効力感、動機づけ調整方略と興味との関連について検討した研究である。興味の深化を捉えるために重層的に研究を構成し、知識の側面を測定することの有用性を実証的に検討した。自己効力感、動機づけ調整方略と興味との関連について、複数回の短期縦断的調査によって検討した。研究の結果、学習の初期における自己効力感は後続の興味に影響を及ぼさなかったが、学習が進むと、自己効力感が後続の興味対象関連の知識を予測することが示された。また、動機づけ調整方略がエンゲージメン

				トを媒介して興味に影響を及ぼすこと、 動機づけの低下状況に合った動機づけ調 整方略の使用が興味を促進することが明 らかとなった。
(その他) (学会発表・シンポジウム) 1 制御焦点と制約が動機づけおよ び創造的パフォーマンスに及ぼ す影響	共同	平成 29 年 9 月	日本心理学会第 81 回大会 (福岡・久留 米シティプラザ)	共同：外山美樹・相川充・三和秀平・湯 立・長峯聖人 自主シンポジウム「わが国における制 御適合に関する研究—個人に合った動 機づけ、パフォーマンス、価値の高め方」 について話題提供 (発表論文集 SS-001)
(学会発表・ポスター) 1 大学生用学習分野への興味尺度 の開発	共同	平成 26 年 9 月	日本心理学会第 78 回大会 (京都・同志 社大学)	共同：湯立・外山美樹 学術論文・審査論文 1 の一部をポスタ ーの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 943)
2 状況的興味の維持に影響する要 因の検討—小学生の課外活動の 文脈において	共同	平成 26 年 9 月	日本教育心理学会第 56 回総会 (兵庫・神 戸国際会議場)	共同：湯立・有富公教・奥園淳子・外山 美樹 課外活動という文脈において、小学生 の活動参加前の個人的興味、活動に従事 する志向性 (努力志向または達成志向)、 活動で得た有能感および状況的興味の喚 起が活動に対する興味の維持に及ぼす影 響について検討した。 (発表論文集 pp. 685)
3 いじめ観が罪悪感の予期と共感 性を媒介にしていじめ加害行動 に及ぼす影響	共同	平成 26 年 11 月	日本教育心理学会第 56 回総会 (兵庫・神 戸国際会議場)	共同：外山美樹・湯立・有富公教・奥園 淳子 いじめ観が罪悪感の予期ならびに共感 性を媒介にしていじめ加害行動に影響を 及ぼすプロセスにおいて、学級集団の質 によって違いが見られるのかどうかを探 索的に検討した。 (発表論文集 pp. 314)
4 自己調整学習方略の使用が興味 の発達に及ぼす影響の検討	共同	平成 27 年 8 月	日本教育心理学会第 57 回総会 (新潟・朱 鷲メッセ)	共同：湯立・外山美樹 異なる自己調整方略の使用が大学生の 専攻分野への個人興味の発達に影響を与 える効果について検討した。 (発表論文集 pp. 149)
5 制御適合はパフォーマンスを高 めるのか？	共同	平成 27 年 8 月	日本パーソナリティ 心理学会第 24 回大 会 (北海道・北海道 教育大学)	共同：外山美樹・三和秀平・湯立・長峯 聖人・相川充 制御焦点理論および制御適合理論を援 用し、個人 (促進焦点なのか防止焦点な のか) によってパフォーマンスを高める 方略が違うことから、個人に合ったアド バイスの提示が重要であるということ を問題提起として検討した。 (発表論文集 pp. 96)
6 大学新生における専攻してい る分野への興味の変化様態—5 ヶ 月の縦断的調査による検討	共同	平成 27 年 9 月	日本心理学会第 79 回大会 (愛知・名古 屋国際会議場)	共同：湯立・外山美樹 学術論文・審査論文 1 の一部をポスタ ーの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 1120)
7 学業領域における制御焦点尺度 の作成	共同	平成 27 年 9 月	日本心理学会第 79 回大会 (愛知・名古	共同：外山美樹・湯立・長峯聖人・三和 秀平・相川充

			屋国際会議場)	学術論文・大学紀要等論文 2 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 903)
8 大学生における専攻している分野への興味の変化と専攻分野に対する価値認識の変化との関連	共同	平成 27 年 9 月	日本パーソナリティ心理学会第 25 回大会 (兵庫・関西大学)	共同：湯立・外山美樹 学術論文・大学紀要等論文 1 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 35)
9 制御焦点と上方比較後の内発的動機づけ・パフォーマンスとの関連—同化と対比に着目して	共同	平成 27 年 9 月	日本パーソナリティ心理学会第 25 回大会 (兵庫・関西大学)	共同：三和秀平・外山美樹・長峯聖人・湯立・黒住嶺・相川充 学術論文・審査論文 5 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 51)
10 制御適合はパフォーマンスを高めるのか？—制御適合の種類とパフォーマンスのタイプ別の検討	共同	平成 27 年 9 月	日本パーソナリティ心理学会第 25 回大会 (兵庫・関西大学)	共同：外山美樹・長峯聖人・湯立・三和秀平・黒住嶺・相川充 学術論文・審査論文 4 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 298)
11 プロセスフィードバックが動機づけに与える影響—制御焦点によって調整されるか？	共同	平成 28 年 10 月	日本教育心理学会第 58 回総会 (香川・かがわ国際会議場)	共同：湯立・外山美樹・長峯聖人・三和秀平・黒住嶺・相川充 学術論文・審査論文 2 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 681)
12 制御適合はパフォーマンスを高めるのかⅡ？—制御適合の種類とパフォーマンスのタイプ別の検討	共同	平成 28 年 10 月	日本教育心理学会第 58 回総会 (香川・かがわ国際会議場)	共同：外山美樹・長峯聖人・湯立・三和秀平・黒住嶺・相川充 学術論文・審査論文 4 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 357)
13 大学運動部活動における部員の自律的動機づけが部活動への適応感に及ぼす影響—主将のリーダーシップを調整変数として	共同	平成 29 年 10 月	日本教育心理学会第 59 回総会 (愛知・名古屋国際会議場)	共同：湯立・外山美樹 学術論文・審査論文 9 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 649)
14 制御適合はパフォーマンスを高めるのか？日常場面の学業パフォーマンスに焦点を当てて	共同	平成 29 年 10 月	日本教育心理学会第 59 回総会 (愛知・名古屋国際会議場)	共同：外山美樹・長峯聖人・湯立・三和秀平・黒住嶺・相川充 学術論文・審査論文 3 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 170)
15 The effects of product constraints on performance in a divergent thinking task : Regulatory focus as a moderator	共同	平成 30 年 3 月	19th Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology (Atlanta, USA)	共同：Tang, L., Toyama, M., Kurozumi, R., Nagamine, M., Miwa, S., & Aikawa, A. 学術論文・審査論文 13 の一部をポスターの形式で発表したものである。
16 Is prevention focus good for performance?: The role of regulatory closure	共同	平成 30 年 3 月	19th Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology (Atlanta, USA)	共同：Toyama, M., Nagamine, M., Tang, L., Miwa, S., Kurozumi, R., & Aikawa, A. 制御完了 (目標が達成されている状態) / 制御未完了 (目標が達成されていない状態) という概念を用いて、制御焦点とパフォーマンスの関連を検討した。
17 Effects of Regulatory Focus on the evaluation of messages: Focus the familiarity as moderators	共同	平成 30 年 3 月	19th Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology (Atlanta, USA)	共同：Nagamine, M., Toyama, M., Miwa, S., Tang, L., Kurozumi, R., & Aikawa, A. 学術論文・審査論文 7 の一部をポスターの形式で発表したものである。

18 Can regulatory fit improve elementary school students' performance and motivation?	共同	平成 30 年 3 月	19th Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology (Atlanta, USA)	共同：Miwa, S., Toyama, M., Nagamine, M., <u>Tang, L.</u> , Kurozumi, R., & Aikawa, A. 学術論文・大学紀要等論文 7 の一部をポスターの形式で発表したものである。
19 産出物の制約が創造的パフォーマンスに及ぼす影響—制御焦点を調整変数として	共同	平成 30 年 9 月	日本心理学会第 82 回大会 (宮城・仙台国際センター)	共同：湯立・外山美樹・長峯聖人・三和秀平・相川充 学術論文・審査論文 13 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 722)
20 防止焦点は認知資源の温存効果に優れているのか?	共同	平成 30 年 9 月	日本心理学会第 82 回大会 (宮城・仙台国際センター)	共同：外山美樹・湯立・肖雨知・長峯聖人・三和秀平・相川充 学術論文・審査論文 10 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 688)
21 制御適合は小学生のパフォーマンスを高めるのか?	共同	平成 30 年 9 月	日本教育心理学会第 60 回総会 (東京・慶応義塾大学)	共同：三和秀平・外山美樹・長峯聖人・湯立・相川充 学術論文・大学紀要等論文 8 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 170)
22 Is prevention focus poor for performance?: The role of the accessibility of superordinate goal	共同	令和元年 9 月	International Congress of Psychological Science 2019 (Paris, France)	共同：Toyama, M., Nagamine, M., <u>Tang, L.</u> , Xiao, Y., Miwa, S., & Aikawa, A. 学術論文・大学紀要等論文 12 の一部をポスターの形式で発表したものである。
23 Do promotion-focused people regard their rivals as important?: Relationships between regulatory focus and rivalry	共同	令和元年 9 月	International Congress of Psychological Science 2019 (Paris, France)	共同：Nagamine, M., Toyama, M., Miwa, S., <u>Tang, L.</u> , Xiao, Y., & Aikawa, A. 学術論文・審査論文 11 の一部をポスターの形式で発表したものである。
24 動機づけ理論に基づく動機づけ調整方略尺度の作成	共同	令和元年 9 月	日本教育心理学会第 61 回総会 (東京・日本大学)	共同：湯立・外山美樹 学術論文・審査論文 8 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 440)
25 難しい学習場面における動機づけ調整方略の使用とエンゲージメントとの関連—制御適合の役割	共同	令和元年 9 月	日本心理学会第 83 回大会 (大阪・立命館大学)	共同：湯立・外山美樹・三和秀平・長峯聖人・肖雨知・相川充 難しい学習場面における動機づけ調整方略の効果が、個人の特徴によって異なるかどうかについて、制御適合の観点から検討した。 (発表論文集 pp. 921)
26 制御焦点が創造的パフォーマンスに及ぼす影響—課題への自我関与に注目して	共同	令和元年 9 月	日本心理学会第 83 回大会 (大阪・立命館大学)	共同：外山美樹・湯立・長峯聖人・肖雨知・三和秀平・海沼亮・相川充 学術論文・審査論文 15 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 713)
27 基本的心理欲求支援が欲求充足を介して友人関係評価に及ぼす影響—制御焦点に着目して	共同	令和元年 9 月	日本心理学会第 83 回大会 (大阪・立命館大学)	共同：三和秀平・外山美樹・肖雨知・長峯聖人・湯立・相川充 学術論文・審査論文 17 の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 709)

28 課題学習における欲求支援行動の効果は制御焦点によって調整されるか？	共同	令和元年9月	日本心理学会第83回大会(大阪・立命館大学)	共同：肖雨知・外山美樹・長峯聖人・三和秀平・湯立・相川充 学術論文・審査論文19の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 922)
29 興味と動機づけ調整方略との継時的な関連—動機づけの低下状況に着目して—	共同	令和元年9月	日本パーソナリティ心理学会第28回大会(東京・日本大学)	共同：湯立・外山美樹 学術論文・審査論文12の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表論文集 pp. 106)
30 身近な役割モデルの存在と英語学習の関連—制御焦点に着目して—	共同	令和元年9月-11月	日本心理学会第84回大会(オンライン開催)	共同：三和秀平・外山美樹・長峯聖人・湯立・海沼亮・相川充 学術論文・大学紀要等論文13の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表抄録集 pp. 207)
31 誘惑対処方略の有効性における学業目標の重要度と困難度の影響—日誌法による検討—	共同	令和元年9月-11月	日本心理学会第84回大会(オンライン開催)	共同：湯立・外山美樹・三和秀平・長峯聖人・海沼亮・相川充 学術論文・大学紀要等論文18の一部をポスターの形式で発表したものである。 (発表抄録集 pp. 200)
32 中学生における教師からの欲求支援行動と学習行動との関連—制御焦点に着目して—	共同	令和元年9月-11月	日本パーソナリティ心理学会第29回大会(オンライン開催)	共同：海沼亮・外山美樹・長峯聖人・湯立・三和秀平・相川充 中学生を対象に、教師から受け取る欲求支援行動と中学生自身の学習行動との関連について制御焦点の効果を踏まえて検討しました。 (発表論文集 pp. 20)
33 Is prevention focus less effective for performance? 3 rd International Conference on Social Science	共同	令和2年3月	3 rd International Conference on Social Science, Humanities and Education(Budapest, Hungary)	共同：Toyama, M., Nagamine, M., Tang, L., Miwa, S., & Aikawa, A. 防止焦点が促進焦点よりもパフォーマンスが低いという結果は、教示された課題の重要性によって異なることが明らかになった。
34 Message order effect in the context of multiple messages in Japan.	共同	令和2年3月	3 rd International Conference on Social Science, Humanities and Education(Budapest, Hungary)	共同：Nagamine, M., Toyama, M., Tang, L., Miwa, S., & Aikawa, A. 一般的に、先に専門性の高い(低い)メッセージが提示された場合、後に提示されたメッセージが低く(高く)評価される」という欧米の先行研究の結果が、日本人では再現されないことが明らかになった。
35 防止焦点はパフォーマンスが低いのか?—課題の重要性に着目して—	共同	令和2年9月19-21日	日本教育心理学会第62回大会(オンライン開催)	共同：外山美樹・長峯聖人・海沼亮・湯立・三和秀平・相川充 促進焦点と防止焦点でパフォーマンスに差が見られない課題(計算課題)を用いて、先行課題の重要性を操作した後の制御焦点(促進焦点、防止焦点)のパフォーマンスについて検討した。 (発表論文集 pp. 239)

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。